

## 【授業科目】免疫検査学

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野 真理	1年次後期	必修	2	30	講義	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>専門基礎分野の「免疫学」で身に着けた基本的な生体の防御機構の知識を基盤とし、免疫的検査の原理、免疫学的検査の実際について学ぶ。</p> <p>免疫的検査とは、免疫学的原理に基づいた検査法のことであり、まず、総論としてその検査原理について学ぶ。原理を習得した上で、それら免疫学的原理を用いた検査について、例えば、梅毒・肝炎ウイルスなどの感染症の検査、アレルギーの検査、自己免疫疾患関連検査、免疫不全症関連検査、腫瘍マーカー検査について学ぶ。</p>						
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードの暗記だけでなく、疾患発症機序や検査方法などを論理的に理解する。</li> </ul>						
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>免疫学を基礎とするので、理解した上で授業に臨むことが望ましい。事後： 毎回学習したポイントについて、よく復習をする</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第1回 抗原抗体反応の特徴</p> <p>第2回 沈降反応</p> <p>第3回 直接凝集反応、間接凝集反応および凝集抑制反応</p> <p>第4回 溶解反応と中和反応</p> <p>第5回 免疫比濁法と免疫比ろう法</p> <p>第6回 免疫電気泳動法と免疫固定電気泳動法</p> <p>第7回 免疫グロブリン異常</p> <p>第8回 腫瘍マーカーと免疫血清検査診断法</p> <p>第9回 細胞性免疫不全症・体液性免疫不全症</p> <p>第10回 アレルギーの分類と発症機序及び主な疾患</p> <p>第11回 自己免疫疾患の免疫血清検査診断法</p> <p>第12回 トレポネーマ感染症と免疫血清検査診断法</p> <p>第13回 肝炎ウイルスと免疫血清検査診断法</p> <p>第14回 レトロウイルス感染症と免疫血清検査診断法</p> <p>第15回 その他の免疫血清検査診断法</p>						全て 星野
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 100% 学期末試験</p>						
教科書	<p>最新臨床検査学講座 免疫検査学 (医歯薬出版株式会社) ※1年前学期「免疫学」で使用したものと同一</p>			参考書等	なし		
学生へのメッセージ	<p>免疫関連疾患や免疫検査についての、臨床現場で必要とされる知識の習得のために講義プリントと教科書を中心に勉強し、論理的に知識を積み重ねていってください。</p>						